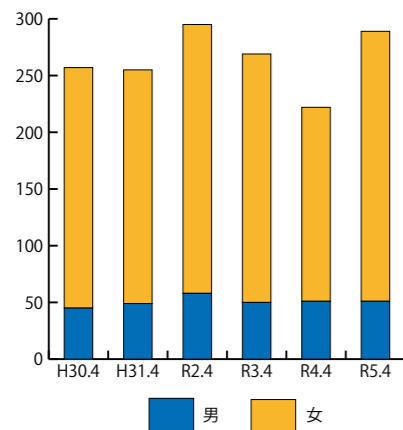


18か国の方々が暮らす勝山市



市内にも289人(令和5年4月現在)の外国人が暮らしています。国籍は18か国にわたり、外国人住民の半数以上が、技能実習などの在留資格で滞在しています。

市内でも多くの外国人が地域産業の担い手として活躍されています。



市内に住む外国人住民の推移

市内には250人～300人程度の外国人が私たちとともに暮らしています。

勝山市では、「人口減少」や「少子高齢化」が地域の担い手や労働者不足に深刻な影響をもたらす、持続可能な社会を築いていくうえで大きな課題となっています。

また、在住外国人も増加傾向にあり、価値観やライフスタイル、働き方など、地域の多様化が一層進んでいます。

このような中で、持続可能なまちづくりを推進していくためには、年齢や性別、国籍、民族、障がいの有無、性的指向・性自認などに関わらず、多様な個性や価値観が受け入れられ、一人ひとりが暮らしやすく活躍できる「ダイバーシティ」の推進が強く求められています。

ダイバーシティを推進すると…

- ◎異なる文化や価値観から新しい発見や学びがある
- ◎様々な個性や能力の相乗効果によって新たな創造力や成長力が生み出される

など

持続可能なまちづくりを推進
キーワードは「ダイバーシティ」



一人ひとりの違いを“知る”中で
交流・連携を増やして互いを“理解”し
多様性を“受け入れる”
すると一人ひとりが違った個性や能力を
持つ個人として“尊重”され、
誰かが“暮らしやすい”社会になる

特集 多様性を受け入れる社会へ
尊重し 支え合おう



市では、令和4年にスタートした第6次総合計画において「性別、年齢等にとらわれない多くの人が参画するまちづくりの推進」を掲げており、市内で生活する外国人がより活躍できるように多文化共生の推進とLGBTQなどの性的マイノリティの方に対する理解促進に取り組んでいきます。

次ページからは、市の取り組みについてご紹介します。